

立命館大学文学部卒業論文題目

ヴィトゲンシュタインとメルロ＝ポンティ

——言語と身体——

藤原 哲

フーコーの権力論について

三島 遼平

J・S・ミル『自由論』におけるミルの人間観の考察

宮本善太郎

ヴィトゲンシュタイン『論理哲学論者』における

吉田 大介

「純粋な実在論」

嘘の合理性

——嘘はどのように受け入れ可能か——

触れない眼と触れることの境界

——メルロ＝ポンティの「眼差しの触診」について——

「おぼろ」の考察

近代的自然観と環境倫理学

フランクファートの両立論における責任

デカルトの認識論における「方法的懐疑」について

サルトルの他者論

なぜ人は生きようとするのか

不登校といじめの関連

——高等学校における実状——

生殖補助医療をめぐる諸問題

ハイデッカーの「存在」とは何か？

意識における美について

教育人間学専攻

豊かなおいしさの成文

——文化としての食事を中心に——

哲学専攻

超越論的主観性は死ぬのか？

——フッサール現象学における「他者のなもの」の問題——

プラトン哲学の意義

ローマ・カトリックにおける人工妊娠中絶論争について

——ピーター・シンガーの提言との比較——

ジェンダーに関する問題に対しての倫理の諸判断

自然と人間の共存

——環境倫理学と西田幾多郎の思想を通して考える——

開発活動を行うにあたって考える人類の幸福と欲求

サルトルの「自由」についての考察

差別の構造についての考察

——ユダヤ人問題に言及しながら——

ニーチェと私

「存在」とその価値

——古代から受け継がれる思い——

法と道徳の弁証論

—— Legalität と Moraliät は対立するか——

人間中心主義から環境倫理への挑戦

——無知・貪欲・近視眼という責任——

安楽死問題についての国内外での比較及び判例研究

芸術とキリスト教に於ける神

尊厳死における尊厳について

現象学的倫理学

レヴィナスとハイデガーにおいてみる人間について

「語りえぬこと」についての考察

エコロジストとしてのショーペンハウアー

——「意志」の把握・その倫理的な取り扱いについて——

絵画から見る身体

——メルロ＝ポンティの絵画論と身体論を中心として——

信念・言語・可能世界

J・デュイーの教育思想

心脳問題と意識の概念について

感覚、言語

——共感覚からのアプローチ——

ベルソナと私との関係について

プラトンの『国家』

レヴィナスとエピクロスにおける死生観の比較

肥塚英美加

小林 賢太

櫻井 峻

佐々木智子

塩竈 義晴

嶋田 悠治

菅原あかね

高味 祐介

高山 和久

田中 由美

出本 圭介

中辻 杏奈

中西 優介

中原 初美

橋口 英右

原野 美生

藤原 哲

三島 遼平

宮本善太郎

吉田 大介

吉峯由希子

米田 あい

大橋 美里

高島 勇太

小川 泰佑

重田 真季

福本 聡

森崎 拓海

伊藤 桂子

井手優紀子

須藤 祐介

本間 琢也

青木 仁美

少年期における教師の支援

—— 9・10歳の発達に着目して —— 赤土 有香

箱庭における受動的自己受容感の研究 今西 彩

—— 新しい自己受容感の提案を目指して ——

学校教育現場におけるモチベーション向上の手続

きと可能性について 入江麻悠子

脱げない服について 小川 千秋

—— 服飾のジェンダー性が人間形成に及ぼす影響 ——

肚の人間学 葛城 彩子

不登校からの立ち直りと自己表現 加藤 杏子

摂食障害とその心 加藤 陽子

—— 抱えているものと求めているもの ——

社会生活における真の自立とは 岸田美彩季

—— 果たしてよい子は自立できるのか ——

果たして書道に未来はあるのか 本田 翔子

—— 「文字を書くということ」に見る書道の展望 ——

小学生の英語教育は必要か

—— 課題と今後の可能性 —— 木村友紀恵

真理 雲川 耕治

〈幸福感〉の自覚と自己変容 小松 真也

—— 〈あきらめ〉からの幸福追求について ——

小学校通常学級における障害児童と学級づくり

—— 知的障害児童の事例を踏まえて —— 後藤めぐみ

子どもの意志の教育 坂下 尚子

—— シュタイナーの教育芸術から学ぶ ——

私たちが求める「やさしさ」についての人間学的考察

佐野友理香

卓球と人間形成 澤根久美子

日本語を母語としない人々のための「日本語教育」を考える

—— 地域日本語ボランティア教室の視点から ——

不登校児への取り組み 塩野入佳奈

—— 事例を踏まえて ——

心の壁 柴田 瞳

音楽による感情の発散と受け入れられる安心感

首藤 由香

挫折と成長 高取 歩

パニック障害 棚田 純大

—— 家族にできる支援の在り方 ——

自己肯定感 為則 友里

나의 시 私 の詩 土田 将

信頼の人間学 寺島 美波

中学校における別室登校生徒へのサポートの可能性

徳重 優

平和教育における「はだしのゲン」の役割

中山 知春

「沖縄」に視点を当てた平和教育の可能性

西沢知佐子

保育園の在り方を考える

丹羽 宏文

サークル活動と自己形成

野口 洋子

大切にしたい、見おとしてはいけないもの

野田 雄司

—— 灰谷文学を通して見つめてきたもの ——

大阪府の特別支援教育の現状と課題

服部加奈子

「心頭を滅却すれば火もまた涼し」は真実か

—— 心理学的考察から ——

子どもと家族の中に見えるもの

堀尾 直美

—— 理想的な家族関係とは ——

「待つ」ことの人間学 松原 加奈

対人不安と自己の確立 明賀 隆之

孤独という名の能力 溝島 綾子

描画における内的変化 宮川菜帆子

環境教育の変遷と可能性 森 晴香

—— 高等学校におけるごみ問題を用いた授業開発 ——

「生きること」の考察 安田真奈里

死の人間学 フランクから学ぶ —— 柳 さおり

—— ソクラテス・プラトンから学ぶ ——

総合的な学習の時間の今後のあり方

山口 智子

—— 伊那小学校の実践を例に ——

脳障害児に対するリハビリテーション

横矢 晴美

—— ドーマン法を中心に ——

韓国における読書療法の動向とその有効性

好峯 夕貴

「自分が自分であって大丈夫」という生き方を目指して

李 美松

—— 「負け」から育む自己肯定感 ——

公立小学校通常学級における特別支援教育の現状と課題

中川 秀則

—— アスペルガー症候群の児童への指導 ——

インナーマザーからの卒業 亀山 治夫

—— 自分を開放するということ ——

受け入れられること 小椋 麻希

—— アタッチメント理論を超えて ——

他者との「ちがひ」と他者理解 石川恵理奈

私立高校における部活動の指導を考える

——高校野球の教育的役割—— 赤崎光世司

『モモ』における時間論 荒谷真理子

家庭における人間関係とその役割 坂本美和子

ペスタロッチとの対話

——人間教育の本源に還る—— 炭谷 桜子

絵本の持つメッセージ 増田 志乃

——子どもを魅了するミッフィー絵本を通して——

生老病死の人間学 佐藤 英子

——自分史のなかで——

がんサバイバーにおける身体的、心理社会的 後藤 佳子

負担を考える

## 日本文学専攻

石川啄木『悲しき玩具』 相宗 美帆

大阪天神信仰 秋葉 侑亮

——天満橋から曾根崎の地を巡って——

絵画と物語を繋ぐもの 浅川 知美

——国宝「源氏物語絵巻」と『源氏物語』における

色彩表現の比較研究—— 吉本ばなな「キッチン」「満月——キッチン2」

中島敦『名人伝』論 安部 沙織

——中島敦における真人—— 新垣 若菜

江國香織と現代 粟辻 祐子

日本における鬼の概念と絵画表現

——酒吞童子と雷神を比較して—— 石川真梨子

遠藤周作『深い河』における男女観 泉谷 瞬

宮沢賢治の「よだかの星」 伊丹多恵子

狩野永徳筆「琴棋書画図襖」についての考察 稲葉 恵子

日本文学から見る美意識の変化 井上 裕章

名前のつけられた楽器 猪瀬 千尋

——蓮華王院宝蔵と中世音楽史——

太宰治「待つ」戦時下の生活と「娘」の存在意義 岩井 里沙

村上春樹『ノルウェイの森』論 岩山麻衣子

武者小路実篤『友情』について 魚川 慧

大学生の母親に対する呼びかけ方について 内海 佳

松上げの研究 卯本 健二

——広河原をめぐって——

若山牧水『別離』 大石 睦

『ドラえもん』論 大隈 七奈

——子供社会のストレスを生きているのび太達——

徳川・五島本『源氏物語絵巻』「竹河(二)」に 太田真希子

おける女房の視線

——デジタルグラフィックスを用いた試み——

『伊勢物語絵巻』の「視線」 尾田 聖子

森鷗外『半日』 川井 菜愛

安岡章太郎『ガラスの靴』 川上 萬

——「僕」とアメリカ——

寝覚物語の引歌表現 岸本 悠子

命名論 北川麻季子

——カップラーメンの名前から見る「食」への意識——

『魚玄機』にみる鷗外の「新しい女」観 北島 一範

川端康成『千羽鶴』論 北山 朋美

中学校国語教科書における指導目標 古志 優佳

『夜の寝覚』第一子言の構成上の意義について 小西 功一

京都鳴滝の洪水伝説 佐々木郁恵

——鳴滝の庭師たちの伝承世界をめぐって——

宮沢賢治『注文の多い料理店』 佐竹 修子

球心いまだ掴めず

——これからのアマチュア野球—— 清水 大輔

『松浦宮物語』攷 須藤 圭

国芳の擬人画 園田 有香

——猫図の魅力を探る——

「紫」の物語としての『源氏物語』 高橋 潮

岩井俊二作品の空想と現実について 田中 誠悟

神と鬼と食べられる人間 田中 裕子

与謝野晶子『明るみへ』 辻 親恵

太宰治『女生徒』 恒川紗智子

泉鏡花『陽炎座』論 寺尾 順

曹源寺本餓鬼草紙の研究

——第五段の絵画を中心に—— 富井 瞳

有吉佐和子『紀ノ川』 虎地 美帆

太宰治『富嶽百景』にみる戦略 仲 美樹

——作りあげられた空間——

田山花袋『平面描写』についての一考察 中村 愛

小川未明『赤いろうそくと人魚』 中村 綾子

- 夏目漱石『硝子戸の中』論 中村 圭祐 『小男の草子』の生成背景 松木 緑  
『更科日記』作者の人生観 永山 恵弥 洛西大原野における在原業平伝説の形成  
——日記に描かれる姨捨伝承をきっかけに—— 小塩山十輪寺をめぐる—— 三上真理子  
国木田独歩『酒中日記』論 西浦 誠 平林たい子論「嘲る」 観山真貴子  
庄野潤三「静物」論 西川 文嘉 松上げの研究 村上 勝章  
彦火々出見尊絵詞の研究 丹羽 梓 ——久多をめぐる—— 村上 勝章  
北野天神における雷神祭祀の原風景 野口 和政 ——山の神の信仰をめぐる—— 村瀬 喜昭  
——駆け上がる神馬の系譜—— 野田恵末里 北村透谷『厭世詩家と女性』 山岡 優希  
穀霊の逃亡神話 よしもとばなな「とかげ」「ひとかけ」 作中に 日本語構文における「は」と「が」の性格 山口千恵美  
おける職業の持つ役割 橋本 有紀 サブキャラクターからみる地獄変論 横井 史織  
平林たい子論 濱岡 佑美 本邦中世における「神」の表象 吉田 磨水  
「寝覚物語」の標題をめぐる—— 早川 慶子 ——協能を中心に—— 沼田 圭祐  
『春日権現験記絵』における神と樹 馬場ゆりか 太宰治『人間失格』 沼田 圭祐  
——八幡縁起との比較を中心に—— 三島由起夫の美学 井上ひさし『ブンとフン』論 梅田 裕也  
——戦後日本へのメッセージ—— 日之迫 結 安部公房「他人の顔」論 木村和歌菜  
松上げの研究 藤森 創 ——都市空間の匿名性—— 『みだれ髪』に表象される「白」について  
——花背をめぐる—— 伊坂幸太郎『魔王』を元にした現代日本社会に 宮沢賢治「どんぐりと山猫」論 末岡 麻美  
対する考察 細野 栄之 『小倉百人一首』における定家の撰歌意識 芳崎 貴瑛  
日本語における性差表現について 堀口 奈穂 ——成立に関する考察を中心に—— 安食 育子  
——若者における様相—— 堀米祐一郎 菊舎・俳諧の旅から得た新しみの匂ひ 大谷 義和  
若紫の「裳着」 ——雲井雁との比較から見た『源氏物語』の「成女儀礼」—— 森鷗外『舞姫』論 中村八重子  
『釈教三十六人歌仙図』 牧野信一の「ゼーロン」について 石川 佳紀  
——達磨和尚・聖徳太子部分について—— 本多 潤子 柿本人麿挽歌群に関する諸考察 大谷 一平  
写楽の役者絵の魅力についての考察 前嶋 敦子 ——鴨山・石川とは—— 中国少数民族ミャオ族  
立命館大学文学部卒業論文題目
- 中国文学専攻  
鍾會の反乱理由について 朝川 翔  
中国の一人っ子政策とその影響 池内 順子  
『故郷』（魯迅）の教材としての研究 伊藤 公亮  
「南柯太守伝」における蟻の意味 梅田 知里  
荀子の礼治主義 荀子の礼治主義 梅田 知里  
——礼論篇の検討とその立場—— 浦田 智子  
中国少数民族ミャオ族 笠井 宣洋

- 中国と日本における七夕  
—— 牽牛織女の描写について——  
河村 幸恵
- 王羲之の人物像  
京谷彩友香
- 李清照の生涯  
—— 詞から読みとく彼女の想い——  
藏ヶ崎咲耶
- 『阿Q正伝』  
—— 精神勝利法について——  
小池 朋美
- 日本の柔道と中国の柔道  
「大地の子」の世界  
古賀 慶子
- 「蘭亭序」王羲之の作か否か  
定井 幸子
- 曹丕、その人物像についての再検討  
白石よしみ
- 神となること  
—— 『封神演義』の世界——  
菅井 加奈
- 阮籍「詠懐詩」における憂い解消について  
鈴木 俊哉
- 仙人の力のもとを考える  
坂上 綾
- 『列仙伝』と『神仙伝』の比較——  
杜牧の江南への思い  
中田 真輔
- 壮年期を中心に——  
王羲之「蘭亭序」の真偽について  
中野 雄介
- 「晋書」「世説新語」の資料比較を中心として  
中国の生み出した龍  
永江 綾香
- 中国における「鬼」とは  
—— 太平広記 鬼部を中心に——  
萩原 葉子
- 道教の人格神—— 関羽信仰の謎——  
林 朋香
- 太公望人物考  
藤川 忠弘
- 柳宗元の現実告発についての考察  
宮川 和之
- 陸遜流罪の真偽  
宮下加奈子
- 金農の書についての考察  
村野 春菜
- 中国における内発的発展論の展開  
安永 賢治
- 鶴見和子氏の内発的発展論の検討を通じて——  
初唐の三大書家  
矢野有希子
- 『封神演義』における運命論  
西原 将基
- 『三国志』と『三国演義』から見る諸葛亮の実像と虚像  
岡嶋 俊輔
- 現代に通じる孫子の思想  
中澤 哲也
- 王弼の思考に関する一考察  
本多 峻
- 英米文学専攻  
ECM構文考察  
青木 大輔
- 『ウェストサイド物語』研究  
朝倉さやか
- 日英語のことわざにおける文法・表現法の比較  
五十嵐志織
- 英語表現の「個」の性質について  
—— 日英語の表現の比較——  
池田 奈穂
- ガーデンパス効果についての考察  
Tom Schluman, *Dead Poets Society* 研究  
石塚 直貴
- Lewis Carroll の *Alice's Adventures in Wonderland*  
における白うさぎの像について  
市川 美希
- Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* 研究  
—— なぜロチェスターはアンソフネットに心を閉ざしたのか——  
伊藤 有加
- George Orwell's *Homage to Catalonia*: "Common Decency" and its importance in Orwell's writing  
井上 勝博
- 再帰代名詞の意味的制約に関する考察  
今北 大雅
- Douglas Coupland の *Generation X: tales for an accelerated culture* の研究  
井村美津子
- X世代とY世代の特徴と時代変化——  
アーサー・ミラーの『るつぼ』にみる自己防衛と心の弱々  
植杉 百子
- 結果構文と使役移動構文の考察  
萩原 絢嗣
- 意味分類と統語構造の融合に向けて  
メアリ・シェリーがはき出した *Frankenstein*  
—— 「母親」に成り得る性を持った者の物語——  
奥田今日子
- Ronald Dahl's *Charlie and the Chocolate Factory*:  
From the viewpoints of adults and children  
緒田祐加子
- 進行相について—— 分類と用法——  
金田さやか
- Kate Chopin, *The Awakening* 研究  
川勝 由悠
- 19世紀アメリカ女性の生き方——  
『ジキル博士とハイド氏』の研究  
河原 瑤
- ジキルはなぜハイドの姿で死んだのか——  
さまざまな作用域における共通性・差異性とその制限性について  
河村 麻衣
- 受動化における情報構造と主題構造の変化について  
—— 二重目的語構文と与格構文の交替——  
城戸 修司
- A true friendship and a love that asks nothing  
in return  
木村麻里子
- Tennessee Williams, *A Streetcar Named Desire* 研究  
楠田 彩乃

マクベス研究

——マクベス夫人の生涯——

桑元 若菜

おとぎ話の書き換え

河野 玲

—— Disney の *Beauty and the Beast* の場合——

Toni Morrison の *Sula* における Sula と Nel の

William Faulkner, "A Rose for Emily" について

オーストラリア英語の発展とその均等性

友情の形成とその不変性

『欲望という名の電車』研究

複合語の構造とその意味

根田ゆかり

Koro's heart change? — the meaning of protecting tradition for the Maori —

—— ブランチの人生観について ——

英語の発想と英語らしさについて

近藤 広実

the Maori — Peter Pan が現れるとき

—— 笑いの変遷とその内なるもの ——

ハムレット研究

崔 裕順

—— J.M. Barrie の Peter Pan 五作品の分析 ——

There 構文の定性の効果について

*The Picture of Dorian Gray* における登場人物

佐伯 健太

—— 寺口 敬子 中井 理絵 ——

Langston Hughes 研究

鏡の国の言葉たち

佐藤亜祐美

『走れ、ウサギ』におけるハリーの逃避とその原因について

—— Hughes が詩に込めたもの ——

—— 映し出された言語世界 ——

佐藤亜祐美

Oscar Wilde, *The Picture of Dorian Gray* 研究

Toni Morrison の *Sula* におけるスーラとネルの成長過程について

Aldous Huxley, *Brave New World* 研究

白石 和輝

George Bernard Shaw の *Pygmalion* について

*Wide Sargasso Sea* に見る Jean Rhys

—— 「新世界」の是非を問う ——

白石 和輝

—— なせけんかになったのか ——

—— 苦痛を書きつけて辿り着いた真実 ——

The Attraction of O. Henry's Stories in Three

白石 和輝

英語色彩語について

Emily Dickinson 研究

Selected Stories: "After Twenty Years", "The Last Leaf", "The Gift of the Magi"

白石 真理

—— 色彩語を含んだ慣用的表現 ——

—— 死とは何なのか ——

『ゾレーヌ・ギャンブー』にみるユ・スロツナー・フィッツジェラルドの思想

杉森 香里

Kate Chopin, *The Awakening* 研究

不定詞補文——分類と特徴——

There 構文

周田 隆徳

—— エドナの成長と海の役割 ——

『ガラスの動物園』研究

—— 形式的な There と副詞の There の関連性について ——

周田 隆徳

—— ウィリアム・フォークナーの「エミリーにバラを」を読む ——

—— テネシーがローラを描くことの意味 ——

Charles M. Schulz's "Peanuts": Why the "Peanuts" is loved by people all over the world

高野 千咲

『M・バタフライ』に表象される「権力」

オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』における、もう一人のドリアン・グレイ

Kazuo Ishiguro's *An Artist of the Floating World*: The meaning of "The floating world" and his double identity

竹盛 有紀

—— 二項対立からの脱却 ——

*Pygmalion* 研究

*BLACK* における「口」愛の重要性

谷口 哲也

The English and Japanese Folk Tale: "Jack and the Beanstalk" and "Momotaro" as Representative Texts

—— Eliza と Higgins の関係を中心に ——

double identity

竹盛 有紀

橋本 雪

法助動詞 CAN の特異性について

—— 認識的法性と根源的法性からの分析 ——

森田 奈緒

森 知子

—— 認知的法性と根源的法性からの分析 ——

BLACK における「口」愛の重要性

谷口 哲也

橋本 雪

—— 認知的法性と根源的法性からの分析 ——

double identity

竹盛 有紀

橋本 雪

—— 認知的法性と根源的法性からの分析 ——

BLACK における「口」愛の重要性

谷口 哲也

橋本 雪

—— 認知的法性と根源的法性からの分析 ——

## Imagery of the Wind in English Literature

安木 美帆

シヤイロツクの人類学

山口奈緒子

——『ヴェニス商人』と中世ヨーロッパのユダヤ人

Beatrice Potter's "The Tale of Peter Rabbit": What

is the factor which attracts people? 吉川 麻子

J. M. Barrie's *Peter Pan*: Why the children who

live in Neverland refuse to grow up 鷺澤 春菜

否定辞の作用域

渡辺 純也

現在完了相と単純過去時制の表現における相違点

永光 優子

L. Frank Baum's *The Wonderful Wizard of Oz*:

The way feminism is depicted in this story

増田 美奈

F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* 研究

——キャンビーの嘘と不注意な人たちの嘘 大塚 奈美

Harper Lee: *To Kill a Mockingbird* 論 熊谷 祐美

ジョン・ダン研究

——恋愛詩に「貫つてあるもの」—— 青木 茂之

A study of Nathaniel Hawthorne's *The Scarlet**Letter*: "human frailty and sorrow" 井出 香織Witi Ihimaera's *The Whale Rider*: The Existence

of Maori in New Zealand 横井香保里

*The Picture of Dorian Gray* 研究 土居 令子

——ドリアン・グレイに見る大英帝国の光と陰——

The Relationship between Gender and Second

Language Acquisition 井上 夏

William Blake's *Songs of Innocence and of**Experience* 研究

井上貴美子

——InnocenceとExperienceの二面性——

アルファベットの起源と伝播についての考察

——古代文字との比較を中心に—— 小林 優

Angela Carterの "The Company of Wolves"

における「赤頭巾の少女」 上村 美緒

小説 マーフィーについて

Toni Morrison, *The Bluest Eye* 研究

Pecolaを中心に見た問題と改善点

アスペクト 進行相について 浦江 裕子

水野 悠作

## 日本史学専攻

源頼朝拳兵の真相

中世の被差別民支配について

日露戦争後の災害派遣

金沢流北条氏の政治的位置

——栄光と没落への道——

都市とオタク文化の邂逅

近世における窯業技術と技術交流

——鳴滝乾山窯跡の出土遺物を基点として——

鎌倉幕府と武士の官位

足利義尚政権の構造について

京都の景観問題と利便性

動物遺存体からみた縄文時代から弥生時代への

変化

関支配権から見る室町幕府の王権吸収 岡田 啓佑

——関寄進の主体の変遷を中心として——

人骨による縄文社会組織研究の課題 岡部 玲子

野党系新聞から見た明治期京都の市部と郡部

中世の巫女について 沖田 全啓

近世中期の播州三木町周辺における「火元入寺」

——寺院の社会的地位についての一考察——

大学構内に所在する埋蔵文化財の保存・活用と

周辺地域との連携

——立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおける

保存の活用法への提言—— 小田慎一郎

角藤 定憲 片岡 秀太

戦闘の移り変わりや鉄砲の影響 勝部 悦美

中世の境界と対馬 兼坂 真也

奈良坂と清水坂の争い 釜下 昌樹

——中世非人の存在—— 河合 正典

京都deお金儲け 川口孝太郎

埴輪研究の現状と課題 木内 志穂

——生産と供給を中心に——

前期古墳における副葬品配置の意義

——刀剣の検討を中心に—— 北岡 江梨

大山崎神人の勢力拡大 北島 理瑛

武田氏の川除普請 久保田貴之

——普請技術と人足動員に関わって——

弥生・古墳時代における木製農耕具

——直柄平鍬の機能的検討を中心に—— 上野 義文

京都市内から出土した武器

——学校からの出土物を中心として—— 小林 史晃

土佐勤王党 駒谷 僚

蝦夷地仮上知に関する考察 今野 貴彦

変態性欲としての同性愛

——男色からの移り変わり—— 後藤 喜裕

中世の芸能興行について 齋藤 誠

生活文化の発信地としての百貨店 齋藤 ゆう

後北条氏の「民政」について 坂本 貴則

国策としての分村移民政策 坂元 亮介

十一会について 佐藤 南

石錐の使用法 澤井 祐己

中世における近江国菅浦の境相論について 澤田 智幸

江戸の井戸 鈴木 香子

中部高地における縄文晩期土器の器種構成 鈴木 裕介

戦後の文化行政と「現代演劇」 高井 齊世

琉球王国の国際的発展の要因 高垣 速人

本土決戦と終戦工作 高木 大輔

滋賀県は何故嶺南地方を求めたか 高久 卓大

——地方と明治政府のインフラ整備に関する考え方の差異——

平安初期における王権と後宮 高田めぐみ

大阪を中心に見る明治期遊廓の姿 高野 美香

浮線文土器成立過程の検討 高宮 洋平

中川小十郎と立命館

——私立大学の経営・自治—— 高山 智浩

『曾我物語』に描かれる子ども

——真名本・仮名本の比較—— 棚池 啓太

八代集における『金葉和歌集』の位置と源俊頼の和歌観 田中 真哉

鎌倉期の足利氏について 田村 英嵩

——歴代当主と北条氏との関係を中心に——

大正後期メディア論考 田村 悠

——何故、新聞の言論は衰退したのか?——

城下町とその類型を考える 為房 大輔

戦後末期における本願寺東西分立について 傳石奈緒美

「国際標準化」する兵器産業

——一八七〇年代から一九二〇年代における兵器の

発展と標準化—— 堤 健次

鈴鏡にみる古墳文化の一樣相 坪井 美幸

戦後期毛利氏の官僚制の発展 寺島 大

破損の様相から見た石鏃の分析 富田昌太郎

北伐による「租界危機」と漢口日本人居留民の対応 鳥居 祥子

天神信仰の成立と展開 中尾美貴子

護良親王の倒幕活動 中嶋 一博

越後上杉氏在京雑掌神余氏と三条西実隆の文芸交流 中村恵理香

日本国内の阿片について 中村 貴之

孝謙・称徳朝の政治

——神祇を包括した仏教—— 中本 晶子

東京デイズニールランドにみる「アメリカ」 中本真由香

誘発される海外旅行 永野 薫

「私生活主義」とはなにか

——公共哲学的観点から考える—— 錦見 一樹

中世界の変容 二宮なつき

武士の発生について

——「党」の視点から—— 野木 雄大

中近世移行期の家臣団統制と御家騒動

——蒲生騒動を中心に—— 長谷川倫和

奥むめおの婦人観

——雑誌『婦人運動』を中心に—— 林 瑞穂

戦乱の中の人々

——中世後期を中心に—— 原 崇全

国民学校芸能科音楽における皇国民錬成について

藤原仲麻呂と紫微中台 菱山 充恵

中央教化団体連合会について 深津 勇仁

——地方における連合会の影響力に関する一考察—— 福井 教益

中部高地における縄文時代の堅果類利用の実態

産業の視点から捉えた京焼 藤森 邦依

——旧道仙化学製陶所窯跡出土遺物からみる京焼と

化学陶磁器の関わり—— 法寺岡宏枝

加越一向一揆を巡る外交とその混乱 前畑 徹

近代公娼制度に於ける「非人売買」主張の位置と

その実相 真杉 侑里

東北戊辰戦争における福島藩の動向 三保 健史

アイヌ民族文化の保存と継承 宮川 智美

——アイヌ文化振興法十年目を迎えて——

池田成彬と政府 宮崎 智尚

- 日本アニメの特徴に関する歴史的考察 宮下 慶祐  
『アサヒグラフ』からみる一九六〇年代の報道記事 宮良 裕一  
中世における延暦寺と織田信長 三好 舞  
女子用往来にみる近世中後期の躰に関する一考察 安田千恵美  
織田信長の三職権任について 柳本 真宏  
山城における前期古墳の円筒埴輪 山菅 敦史  
——ヒル塚古墳の埴輪を中心に—— 吉崎 信陽  
本願寺教壇の組織と経営 吉崎 信陽  
貴族社会における路の機能と変遷  
——院政期を中心に—— 吉田 真澄  
終末期古墳の埴形をめぐって 蜂谷友桂子  
——7世紀に築造される方墳の意味—— 笠野 陽太  
弥生・古墳時代の琴 山本 陽平  
なぜ平安京には死骸が多かったのか? 細川 来樹  
——平城京から平安京への都市構造の変化を通して—— 西井 英史  
中部高地における縄文時代の滑石製玉類 田中 敬一  
『住吉大社神代記』の成立年代と編纂の背景 宮岡 昌宣  
吉備の陶棺 西井 英史  
「白村江」前後の歴史状況に関して 田中 敬一  
——東アジアの国際関係と倭の防衛体制—— 葭田 洋子  
幕末・維新の彦根藩の動向 加藤なおみ  
中世後期の庭者の考察 勝部 志織  
訪日外国人の見た十九世紀後半の日本 加藤 勝幸  
前挽鋸の民俗考古学的考察 荻場 美光  
戦国期関東における由良氏の位置づけ 荻場 美光
- キリシタン学校についての諸考察 河合 悠樹  
——16世紀半ばから後半にかけて—— 田邊 直太  
テレビゲームがもたらしたものの 巨 謙太郎  
国家神道の存在意義 古市 景久  
隼人司の役割について 藤田 祥史  
デットマールクラマーと日本サッカー 山内 智博  
奴婢の放賤従良 中西 拓人  
近代におけるアイヌ差別史
- 東洋史学専攻  
秦漢時代の爵制についての一考察 天野 未貴  
北洋艦隊の実力についての考察 石井 彰  
——増強と戦略を中心に—— 伊藤 彩  
青色絵具に関する一考察 岩本 大河  
——とくに歴史と経済活動を中心に—— 植田 潤一  
海外遷住華人について 梅田 成大  
中国における愛国主義教育の推進とその帰趨 江田 太郎  
中国王朝の都市計画と思想 大野加寸美  
——都市の黄金率を探る—— 岡田 望  
14世紀～16世紀東アジア海域における人の流れ 雲岡石窟寺院 望  
——倭寇を中心に—— 雲岡石窟寺院  
雲岡石窟寺院 望  
——曇曜五窟に着目して—— 望  
西太后の最後の十年 望
- 宋代の泉州に関する一考察 上村 知世  
——回教を中心とした観点から—— 河本 洋  
中共宣伝部について 小島 直也  
洪秀全と曾國藩 小島 直也  
——太平天国期の行動と評価——  
遊牧を中心としたモンゴル民族の生業について 小林 祐子  
王小波・李順の乱について 小牧 俊一  
鐘会謀叛について 小松 真之  
古代中国の髪型 洪江さやか  
——魏晋南北朝における「素髮」の考察を中心に——  
明代における火器の拡散と普及 嶋岡 克修  
元代の権力層と侍衛親軍 清水 香織  
朱元璋政権における軍制について 鈴木 貴典  
——翼から衛へ—— 竹田啓太郎  
漢代の市に関する考察 田中 本泰  
肅宗・代宗朝における政治勢力と不空 寺田真由美  
古代中国における巫と巫術の考察 中山 太郎  
東北境外の黒水・鉄勒・達姑等にみる渤海の支配体制 西村乃梨子  
毛沢東の結婚観 一宮健太郎  
北宋開封の住宅事情 嶺岸 睦  
中国文化大革命期青年学生の感情的高揚 嶺岸 睦  
——発生の社会的背景と生活史から——  
老子についての一考察 宮澤 達志  
——郭店楚墓竹簡を中心として—— 宮脇 恒太  
明代貨幣に関する一考察 宮脇 恒太

明代・清代の纏足

向井 千尋

西洋史学専攻

—— 他者・当事者の立場から考察する ——

農民工子弟の義務教育問題に関する一考察

向畑衣里子

インディオが見たスペインのインカ征服と支配

—— ラス・カサス・ボマは何を伝えたかったのか ——

古代ジャワとインドの交流

山崎 美保

19世紀から20世紀初頭のアメ리카における白人移

民の社会的地位の変容…アイルランド系とイタ

華北明末民衆反乱の要因

山下由紀子

リア系を中心に

出井絵梨子

—— 賦・徭役の観点から ——

山根 拓也

魔女狩り―社会構造が犯罪発生へ及ぼす影響に

ついての考察

辛酉政変

山本 怜

大学の使命

植村 航

—— 肅順敗北の要因について ——

横川 幸子

—— ドイツにおける歴史の変遷からの考察 ——

グローバル化と歴史博物館

霧社事件 民族的アイデンティティ

横山 博俊

—— 国民国家と時空間の変容 ——

宇野真澄香

南宋における黜降人事について

伊藤 侑希

19世紀「ハンガリー音楽」の成立とジプシー楽団…

リストとバルトークを中心に

—— 孝宗期の弾劾事例を中心に ——

大森 健雄

ドラッグ全面解禁論と厳罰主義

大塚 悠太

三国呉形成史序論

日高 将博

戦間期における日米の軍事・外交政策…ワシント

ン体制と協調外交の崩壊

南宋彫漆についての一考察

原口賢一郎

マリヤ・テレジアとウィーンの民衆

影山 浩司

中国最初の近代製鉄所 漢冶萍公司

新妻 直美

—— 娯楽の管理者としての啓蒙君主 ——

加藤 理恵

北アジア諸民族の狼祖伝説とシャーマニズムについて

近藤 誠

近現代におけるオカルト信仰についての考察

楠木 純一

ヒップホップの現代性…アメリカ合衆国における

現代黒人文化

中世における商人観

—— 装いを通して ——

美の価値…モダニズム絵画の受容

イスラーム復興

—— 近・現代における宗教観変遷からの考察 ——

アイランド人のキリスト教受容

フランス移民政策…統合から他文化主義へ、

そしてその先

古代末期における富の再分配システムの變遷

—— 恵年から救貧への移行と貧者の概念の変化について ——

西洋近代における身体の管理(メンテナンス)…

入浴から化粧まで

女性のある方とは

—— 19世紀イギリスの女性たち、女性の美意識と

社会的地位の変容 ——

レーガン政権以降のアメリカ政治…保守革命と

その後の分断社会

アンシャン・レージュム期の民衆本文化

音楽都市とモーツァルト

—— 18世紀後半のウィーン ——

スウェーデンという「男女平等先進国家」の形成…

キリスト教・家父長制的秩序の崩壊

ドイツの政治教育に見る日本の課題

近現代ヨーロッパの女性史

—— 18世紀後半のウィーン ——

寺井加奈子

宰井 琢騰

佐久間祥子

下野 菜央

白井 緑

須江 健子

高野 未緒

田頭麻紀子

田中 斐子

田中智恵子

千葉 真史

土谷 真生

土器 祐輔

中島 真司

出谷 美穂

土器 祐輔

中島 真司

大谷健一郎

林 健太

黒田 明季

小林 幸造

黒田 明季

近現代のユダヤ人

中瀬 智広

雇用における女性労働の諸問題

山田 香

市街地拡大からみた都市地域の形成過程

川原 瞳

「アテナイ帝国」とは何だったのか

——ドイツ・ポーランド・オーストリアなど——  
中村 幹

雇用先進国と比較して——

熊本市を事例として——  
新たな地理情報の空間分析——  
社会的資産としての水環境の活用

木田 和海

サッチャーからブレアへの転換にみるイギリス教育改革

藤澤 桜

大阪市における飲食店の立地展開

井坂 真介

——梅田地区のイタリア料理店を事例として——  
——大津市堅田地区を事例に——

黒田 匠

女神の変容

——イコノロジの視点から——  
堀 詩織

京都市左京区花背別所集落における村落の空間構成

横浜市中区における保育施設の立地展開と利用環境

湖上 悠

公衆衛生局とベスト

——中世から近代への衛生観の変化——  
松井 公美

植民地期朝鮮における滋賀県人の就業活動

——湖西・志賀町を事例に——  
——淡路市釜口、飯屋、浦地区を事例として——

小松 佳史

ポストモダンの歴史学

——歴史を学ぶ意義——  
松田さやか

駅前都市再開発と発展形態の考察

——淡路市釜口、飯屋、浦地区を事例として——  
——立山黒部アルペンルートの影響を中心に——

齊藤 浩一

禁酒法にみるアメリカ合衆国の政治・文化的改革

宮田 佳織

大阪駅前を事例として——  
——京都市西京区を事例として——馬谷 博敏  
及川 早瀬

ファシズムの「戦勝」国

——イタリアの抱えるジレンマ——  
森本 衣美

採石者と保証人の関係から見る採掘権の実態

——京都市内3地域を対象として——  
——京都府におけるスポーツ・フィットネスクラブの立地展開——

坂部 昭彦

黒人文化とブルース…アメリカ合衆国における

アフリカ文化の破壊と再創造  
山岡 遼平

新空港の開港に伴う利用交通手段の変化とその要因

——立山黒部アルペンルートの影響を中心に——  
——富山県・北アルプスにおける宿泊施設の地域的変容——

富山県・北アルプスにおける宿泊施設の地域的変容

中世の性規範と結婚

——女性の身体をどう見たか——  
渡邊 朗美

医療機関従事者にみる就業女性の通勤パターン

——西陣織を事例として——  
——三重県桑名市を事例として——

佐々木大造

サッカーのメディアビジネス化…組織運営への

影響と問題点  
堀北 禎仁

有馬温泉集落の内部構造とその変容

——三重県桑名市を事例として——  
——京都府における伝統野菜のブランド化——

柴田 琴

アメリカ合衆国におけるアフアーマティブ・アク

ションをめぐる諸問題…「カラー・コンシャス」

規制緩和による高速バス路線網の拡大とその変容

——伏見区羽東市のみず菜を事例に——  
——京都府における住宅地景観と住民属性の関連性について——

下口 幸子

は差別を意味するか

アケメネス朝時代における古代ペルシア人像  
山田 優理

近畿地方における家電量販店の立地展開

——吹田市山田を事例に——  
——吹田市山田を事例として——

甲斐 崇之

地域環境の変化による子どもの遊びの変容

——吹田市山田を事例に——  
加藤 義徳

京都市を事例として——

折戸 秀平

十字軍におけるテンブル騎士団

菊池 陽子  
川崎 裕之

加藤 義徳

高橋 真輝

- 京都市都心部における中高層集合住宅の展開と地域性 田所 和樹  
 京都府東山区における高齢者の生活空間 中村 正紀  
 伝建地区京都府美山町北における歴史的景観変容 中村 美甫  
 近代京都における「遊客」たちの行動 谷 舞子  
 宮川筋四丁目工家『遊客人名帳』を用いて——  
 ニュータウン地域における高齢者の居住環境評価  
 奈良市・平城ニュータウンを事例として—— 長島 雄毅  
 『京都府地誌』を中心として——  
 コンパクトな都市にむけての現状と取り組み 新田 安弘  
 鹿児島市中心部を事例として——  
 水辺の利用と観光まちづくり 西岡 優子  
 米原市醒井を事例として——  
 奈良県における外来患者の受療先決定要因 丹羽 智子  
 事例として——  
 JR片町線沿線地域における集団住宅地の立地展開 橋川 淳一  
 土地利用変化からみた京都市中心市街地の変容 原 晃太郎  
 駐車場に着目して——  
 使用済み自動車のリサイクルネットワーク 兵藤 文香  
 京都府八幡市の解体業を対象に——  
 伝統野菜の再評価と保存の取り組み 平田 恵理  
 伊勢いもを事例として——  
 京都市における大規模葬儀場の立地と周辺住民の反応 福田 美幸  
 京都市における宿泊施設の立地展開 古屋 賢了  
 京都駅周辺を中心として——  
 京都府旧美山町におけるグリーンツーリズムを  
 はじめとする観光業による農山村地域の再生 別役 梨紗  
 兵庫県鉢伏山周辺におけるスキー場の開発過程と現状 前田委佐巳  
 日本におけるシネマ・コンプレックスの立地展開 前田 茉美  
 都市化による民俗信仰形態の変化 増田 奈史  
 大阪市・兵庫県加古川市を事例に——  
 都市計画条例の建築制限に伴う新規建築物の立地変化 村上 克也  
 京都府中心部を事例に——  
 企業誘致が地域に及ぼす影響について 村上 克也  
 三重県の二つの自治体を事例に—— 村松 正紀  
 京都市におけるカトリックの受容と教会及び  
 修道院の立地展開 持田 剛志  
 阪神・淡路大震災以降における分譲マンションの立地展開  
 神戸市東灘区を事例に—— 森口 公哉  
 毛織物工業の立地変容  
 愛知県一宮市を中心に—— 森島 秀昭  
 京都市における観光振興策についての考察 柳田英美里  
 関西アパレル企業の東京進出について  
 某大手アパレル企業を例に—— 山口 琢也  
 愛媛県宇和島市における養殖マダイ産地の成長と  
 その要因 山本 達彦  
 水産商社の果たす役割に着目して——  
 宿泊施設の高齢者に対する設備  
 奈良市を事例に—— 芳川 嘉文  
 日本脳炎媒介蚊コガタアカイエカの捕集数に  
 みられる時空間的变化 米島万有子  
 富山平野の気象と土地利用に着目して——
- 全国総合開発計画の展開と終焉  
 近畿地方を事例に—— 智葉 幸翼  
 農業公園の現状と地域への影響  
 三重県旧阿山郡阿山町のモクモクファームを  
 事例として—— 辻川 直哉  
 京都市における学習塾の発展 都築 春那  
 都市近郊における市民農園の現状と課題 富永 和貴  
 京都市一乗寺里ノ西農園を事例として——  
 市町村合併による公営バス事業の変容と購買活動 豊田 晋平  
 の影響  
 近江八幡における瓦産業の変容 土肥 尚弘  
 八幡堀の機能を中心に——  
 奈良市における修景保存と観光開発 中嶋 道子  
 奈良町を中心に——  
 金沢市におけるライトアップの実態と地域への効果  
 観光開発業者と地域住民、そして観光客の視点から—— 中田 一生  
 近代の北海道における遊郭の立地展開 中村 一公  
 薄野遊郭を事例として——  
 大正期の未成鉄道における発起人の特性 中村 恒裕  
 静岡県の駿遠鉄道を事例として——

都心部における放置自転車の分布

——京都市を事例として—— 渡部 健矢

日本における都道府県間の人口移動の変容

——逆算距離を用いて—— 渡部 佑一

日本における中国人学生の生活上の特徴 許 早早

——京都市伏見区の留学生・就学生の事例——

第二次世界大戦以前の社会教育の多様性 出口 貴典

——公共図書館の立地展開をめぐって——

パート労働者の特性からみた風俗宿泊施設の立地展開

——京都市伏見区を事例に—— 水上 敬太

観光都市京都に対するツーリストのイメージ分析

山口 智子

旧陸軍伊良湖射場における軍用地の民間への貸与

大林 徹也

大学生によるアルバイト就労先の選択行動

——地理的位置関係の影響—— 中島 彩杏

淡路島の交通環境が与えたガソリンスタンドの

立地への影響 浅井 秀考

岐阜県美濃市における歴史的町並みを生かした

まちづくりと景観保全 岩田 優紀

新聞折込広告からみた大都市近郊における求人行動

——岡崎市を事例に—— 川村 沙織

山岳地帯についての空間認識の変容にともなう

登山の観光化とその問題 多尾田 遼

——滋賀県比良山系での山岳事故を事例として——

和歌山県白浜町におけるスキューバダイビング

導入に伴う地域社会の変容 三好 孝明

重要伝統的建造物群保存地区における交通環境と

住民の居留意識

——奈良県橿原市今井町を事例に—— 本山 茂伸

イメージ戦略から見た「熱海」の変容

——バブル崩壊以降を中心に—— 森田 宏樹

都市における人口移動と居住者特性の変化

——京都市上京区を事例として—— 山縣 紘一

インターネットにおける情報の空間的拡散

——バーチャル京都3Dマップを事例に—— 渡辺 広織

京都市における使用済み食用油の回収拠点の分布

と特徴 蔵本 優

地下街におけるまちづくりのこれから

——京都市を事例に—— 小石 雄己

紀ノ川上流域の土地開発についての歴史地理的考察

——主にかつらぎ町域を中心として—— 富加見沙耶子

成立時期からみた郊外ニュータウンの比較

来日アーティストの国内移動について 藤井 康平

居酒屋の立地展開

——京都市右京区・下京区を中心に—— 井上 真理

京都市営地下鉄東西線延伸に伴う京都市西部の新

駅周辺の都市的土地利用変化 横山 典雄

京都市における中心商店街の構造変化

——子どもの遊び空間の変容—— 福田 宏憲

——滋賀県守山市の小学校区を事例として——

小笠原大輔

人文総合科学インスティテュート  
(学際プログラム)

怪談

——人が語り継ぐことの可能性—— 浅田 進也

延暦寺維摩居士像の造形のもつ意味 阿部 美月

日本語の話しことばにみる日本人の性質 池田あすか

古来から伝わる身体技法について

——丹田を中心に—— 伊藤 慎典

現代日本女性のファッションと身体 伊藤 由佳

西洋音楽の表現と言語の解釈 稲田 紘子

The Soul of Klemer 岩瀬 有里

——ユダヤのポピュラー音楽を追って——

角田光代論 内田 有優

着物——民族衣装から見る日本人 衛藤 茜

キャッチボールで世界を平和に 菊池 一史

アメリカ合衆国に散りばめられたネイティブ・

アメリカン言語 黒田 歩

限界を越えたスポーツ選手たち 小島 健

文学における色彩

——ゲートのファウストを用いて—— 小林 亜美

日本人はなぜ英語ができないのか 小林 奈央

映画の流通回路を辿って

——映画祭の可能性—— 小林 未希

描かれる京都の姿 近藤志保子

——洛中洛外図屏風にみる「名所」とその変遷——

映画『花とアリス』における写真表現 三瓶 洋子

——岩井俊二作品にみられる現実と非現実

平和画家、丸木位理・丸木俊 下窪 真生

——「原爆の図」を中心に——

ペギー・グッケンハイムと「今世紀の美術」画廊

——抽象表現主義形成の場として—— 新海さやか

かごめかごめ

——宗教から派生した遊び—— 新免由貴子

中世イベリア半島の金属工芸

——「ヒシャーム2世の小箱」を読み解く—— 杉岡 李乃

日本音楽の中の「ことば」

——音楽からみる日本人—— 鈴木あゆみ

下着とジェンダー・身体

香具師に見る伝統と近代 高橋 景子

イタリア語における動物慣用表現

柳宗理とアノニマスデザイン 竹田亜也子

——モダンと伝統の融和から—— 民野 陸恵

グローバルな『知識創造社会』への移行可能性に

ついての考察 寺田 純子

サッカーにおけるマスコミの影響および社会問題

遠山 達矢

日西翻訳の行く先

——日英翻訳との比較において—— 中村奈緒実

肉刑論にみられる輿論の性格

——漢末・曹魏を中心として—— 長野 優

龍(ドラゴン)

——人間の想像力—— 風 愛唯美

S F文学における破滅イメージからみる想像力の

指向性の変化 野間野文男

吸収する文化

——アイリッシュ・ダンスにみるアイルランド文化の特性——

学生運動の再生は可能か 平田 正造

——立命館大学全共闘運動の軌跡から——

エミール・ガレとガラスのジャポニスム 平谷 幸子

——19世紀末フランスにおける芸術の模索——

日本近代彫刻におけるロダン主義の系譜 廣江 啓輔

ムーミン童話における生き物・モラン

——モランの意味するものとは—— 松浦 早紀

カウンターカルチャーとしてのヒッピーブーム

多層エスニシティ都市京都 松田有紀子

——「あわい」の場としての四条河原——

インテリア、選ぶ楽しさ

——家具と雑貨の世界—— 萬野 裕佳

日本語の変化と若者言葉について

色彩の表象 村井 直樹

——中世末期ヨーロッパにおける緑色の考察—— 村上 千春

恋愛観の変遷をめぐって

映画『ロード・オブ・ザ・リング』三部作に 村田 美緒

おける(目)の支配的構造

ドストエフスキー『罪と罰』に於ける主題の考察 室 恵莉奈

日本人の宗教観 動物信仰

——「美しき絵ガラスの聖母」について—— 森 研二

シャルトル大聖堂のステンドグラス研究

——「美しき絵ガラスの聖母」について—— 山口 早織

方言の方向性 求められる変化

山副 良彦

生き残った伝統芸能

——落語存続の要因—— 山田 悟史

Do you believe in fairies?

——妖精の存在意義—— 山田 麻由

現代ドイツのトルコ人移民労働者問題

北欧神話における世界樹の役割 山田 元輝

——樹木の俯瞰的シンボリズムを通して探る—— 劉 夏月

中世イスラーム・スペインとオリエンタリズム

——その文化的支配における比較・考察—— 若杉麻侑加

フランスの多様性と個人主義 渡辺 香

現代映画が要請する観客と倫理性について

——ジル・ドゥルーズ「シネマ2」の観点から—— 和田 泰典

アール・ヌーヴォーにおけるジャポニズム

日本語教育における敬語について 山崎 裕美

日本語教育における方言教育の有効性

「ことば」と「こころ」の教育 武藤佐智子

——年少者日本語教育の視点から—— 山内 彩

花宴——花見に見る日本の文化—— 小倉 智恵

神の見えざる顔——抽象・象徴芸術から見る信仰

——カッパドキア壁画群より辿る—— 安達由貴子

鳳凰堂の絵画的要素とその形成について

装う身体 大嶋 奈帆

——現代ファッションに至るまで—— 岡部 巧

レディ・オヴ・シヤロットをめぐる

——ラファエル前派の絵画から—— 尾関 ゆい

なにが写真世界をかえたのか

——芸術と人間と社会—— 鹿島 萌子

文字と芸術 久保田哲広

「死」を意味する映画無音描写についての構造分析

——黒澤明、キューブリック映画からの考察—— 田中 雅則

時間について物語ること

別役 知紗

中国における「龍」の起源とその成立

水嶋 浩乃

ヴェールは抑圧の象徴か？

小林 麗美

——イランのヴェールと女性達——

高橋 祐子

メディアにおける外来語

高橋 祐子

旧ユーゴスラビアにおける紛争と民族浄化

松下 篤史

ブレゼーペと18世紀のナポリ

青木 美幸

イタリア中小企業のブランド戦略に学ぶ日本の

梅津 祐哉

製造業の展望

山田 卓矢

フランス語圏の言語と文化

太田 千秋

エトルリア文明の壁画

堀 俊介

フィレンツェにおける都市の繁栄による町並みの変化

小林真奈美

劇団四季論——発生と変容について——

内藤 麻美

現代病——パニック障害と闘う人々

中川 昌樹

音楽ジャーナリズムに見る消費構造

堀内 聡

京都の都市空間の都市美にみる精神性について

齋藤 眞

黒澤清監督作品『CURE』論

田中 洋輔

石原かんじと第二次世界大戦

三河香織里

若者言葉の現実

人文総合科学インスティテュート (国際プログラム)

日本語教育におけるあいづち

上畑 未来

——日本語教科書でのあいづちの取り扱い——

文化としての英語

黒木 麻衣

——英語の多様化と脱欧米化——

国際共通語、エスペラント

小酒井智絵

日本語の三人称代名詞

坂本 友

日本語的コミュニケーション

堂地 美紗

——ことばよりも強いもの——

映画「ハウルの動く城」から考える日英翻訳

山本 香里

日本語と外国語による色の捉え方

山本 麻生

グローバル社会における企業理念のあり方

山岡 由佳

「生徒」のための学校教育とは

石井 温子

——単位制定時制高校とオルタナティブ・スクールのとりくみ——

心理学専攻

視覚障害者のパソコン操作における晴眼者との

共用マニユアルの効果

池田 沙織

公判前報道の影響を受けた裁判員に対する裁判官

説示と他者意見の効果

石山 潤

——模擬裁判員実験を通して——

説明文におけるイラストのおもしろさが理解と

記憶に及ぼす効果

井上依織子

抑うつ傾向者における表情認知の歪みの検討

入江 智也

「英語を話す」という行動に及ぼす受信者の効果

岩井 亮

大学生における攻撃性に関連のある変数の調査

上北祐基子

メーリングリストを使用したパフォーマンス・フィー

ドバックがボランティアの活動参加に与える影響

上原 誠子

高機能自閉症児の養育における両親の意識の比較

宇佐亜希子

四人のジレンマにおける非協力への誘因の効果

——社会的変換とユースティックス仮説の批判的検討——

二画像間の相違探しにおける注意誘導の効果

大城 拓己

人生 with 病

——難病患者の為のQOLに関する検討——

相互教授法が文章理解に及ぼす影響

メディア報道による共感喚起

低自尊心のナルシズム的傾向とその関係

語りの通時的変化についての研究

——若者へのインタビューから——

手指だけで点字図形の大きさは正しく知覚できるのか

言葉と色彩の連想関係における性差

小川 昂司

落合 美緒

- 地図の理解に及ぼす整列性効果が道案内に与える影響について 柏木 大輔
- 母親の子育てに祖母が与える影響に関する実験的研究 梶本明日香
- 2、3、4歳児の絵刺激に対する描画活動 片山裕美子  
——なぐり描き期から象徴期への移行——
- 緊張場面における「あがり」とパフォーマンス 桂川 理恵
- 成功感に対するACTの効果検討 加藤 寛子
- 援助行動における「ありがとう」が動機づけに与える影響 門田 祐輔
- 編入学体験が及ぼす影響の検討 小松加奈子
- 編入学生と在来学生を対象とし、学習の観点から調査——
- 青年期後期の見捨てられ不安と自己疎外について 河崎 里実
- 幼少期における養育者との関係から——
- 環境の違いによる作業への影響 川地 賢作
- 音環境について——
- 社会・認知的進路理論から見る青年期大学生の進路発達過程 川畑有紀子
- 発達障害児に対する反復学習を用いた集団学習の効果 京谷 秀美
- 就職活動に対する意識の違いについて 菊池 勝之
- 大学4年生と1年生を対象とした比較——
- マイクロカウンセンシングによる印象向上 木村 友香
- 文章作成における感情の影響 久田見 暁
- ネガティブ感情・悲しみと恐れと比較——
- 予備知識が説明文と会話形式の文の再認記憶に及ぼす効果 倉橋 祐里
- 運動適正検査器と安全性テストからみる高齢者と大学生の運転特性の違い 桑名 佳奈
- 医療や健康、美容に関する「噂」の研究 小出 真弓
- 大学生・大学院生を対象として——
- 自己表現に与える媒介の影響 幸田 佳奈
- 攻撃性を引き起こす要因 幸野 裕子
- 自己愛傾向やソーシャルサポートの欠如を中心に考える——
- 男子大学生を対象としたBLOGを用いた運動習慣形成支援の効果 小林 靖尚
- 自我同一性と他者との比較との関連について 小尾 幸平
- 比較の目的に焦点をあてて——
- 説得におけるチャネルの違いが受け手の判断や態度に及ぼす影響 小松加奈子
- 裁判員制度導入に向けた模擬裁判員実験——
- リズムパターンの難易度とモダリティの違いがリズムパターン認知に及ぼす影響 後藤久美子
- 気分上昇後の自尊心の高低と視点の違いが援助行動に及ぼす影響 櫻井 葉月
- 社会的依存要求からみた大学生の友人関係 佐藤 和香
- 居住形態との関連——
- コンテンツ連動型バナー広告のインプレッション効果 椎原 啓介
- 理想・現実自己の差異とプライバシー志向性の関連性について 塩釜 彩子
- 自己志向的完全主義が没入傾向および抑うつ傾向に与える影響 四条 仁美
- 具体物を使った色の記憶と再認 志野 力哉
- 記憶色と色記憶の効果——
- 洞察問題解決における潜在的処理とメタ認知的処理 柴田有里子
- 好嫌度との関係——
- 交響楽作品の感情価の測定 島村 周
- 障害者雇用実習における職場への影響 清水 香那
- 想起の反復による記憶の正確性と確信度の変化 清水 亮平
- 公判調書を用いた供述分析 霜田 有里
- 2件強盗殺人事件を題材に——
- 水泳のスタートにおける行動的コーチングと指導によるパフォーマンスの満足度 須田 晃生
- BGM付き広告が商品評価と購買欲に及ぼす効果 関口 達哉
- 小さな介入、大きな成果
- より効果的で省力的な公的揭示によるサークルの環境改善及び維持—— 高田千恵子
- 地域在宅高齢者における展覧的記憶の評価 高野 沙希
- 音読・計算課題の反復遂行による効果の検討まで——
- 類似性判断と気分との関係 高橋ひかる
- 大学生の占いによる自己情報収集行動 田川 恵理
- 思考抑制が注意バイアスに与える影響 竹林 由武
- 自動的処理過程と意識的処理過程における検討——
- ジグソーパズル解きの困難度とピース位置の曖昧度との関係 田代 光
- バレーボールのフロッターサーブにおけるセルフイメージの反応所産への影響 田中 瑞乃
- 知的障害のある個人に対する携帯電話のメール機能の使い分け訓練 月ヶ瀬悠輔

- オカルト的要素を持つ「うわさ」の知覚心理学的分析 辻田 勝
- 人の行動に影響を与えるプリマツクの原理に関する実験 鳥井 千里
- 運転シミュレーション場面で見られる失敗傾向について 中川 富葵
- 発達障害児における生活行動面の変化と自尊感情変化の関連性 中川 恵
- きょうだい関係が社会的スキルおよび自尊心に与える影響について 中村明日香
- マッチング課題における囲い枠の効果について 中村 祐介
- 大学生における類型別にみた孤独感と自我同一性の関連 奈良 昂
- あるゲイ男性における自らの存在意義をめぐる語り——「ゲイ」と「ノンケ」の境界を行き来する当事者のあり方—— 西川 未佳
- 家族関係と児童期の子どもの抑うつ傾向との関連 二宮 敦子
- ストレス対処法とカウンセリングに対する態度——アタッチメント・スタイルという観点から—— 野口 恵実
- 思考抑制の逆説的效果と気分の相互作用 野添 健太
- 音読・計算の反復学習継続者の実行機能検査遂行時の前頭前野の活動 波江野雅文
- ウォーキングフォームの改善による身体的・精神的変化とダイエット効果 橋本 優花
- 冊子の表紙の色と内容のイメージの組み合わせが冊子の受け取りやすさに及ぼす影響 林 暖也
- 発達障害児における電動車椅子の操作スキル獲得によるQOLの向上に関する考察 坂 明恵
- 大学生の読書行動と再読後の印象評価 東 奈々恵
- 逆説的思考侵入効果の検出に関する実験的研究 東 まどか
- 大学生における家族の健康性について——過去の食事体験の影響およびFamily System Testによる検討—— 樋口 愛
- ポジティブな出来事とネガティブな出来事に対する関東と関西の評価の違い 久永 奈穂
- 投与者の態度とブラシーボの情報ブラシーボ効果におよぼす影響 平尾早悠佳
- 個人の保有する典型色が色の再認に及ぼす影響 深田 好美
- 中学生における親との信頼感の形成と自己肯定感の関連——親の養育態度との関連に着目して—— 福田 央子
- 一人暮らしの大学生の睡眠時間改善による行動変化 福野佳菜絵
- ハトにおける注意操作の検討——刺激性制御の変化と維持—— 福岡 仁志
- 音声の提示速度が印象形成とわかりやすさに及ぼす影響 舟橋 涼子
- 発言内容の自己防衛性と他者攻撃性が欺瞞性の認知に与える影響 古卿 香乃
- 販売活動を通じたコミュニケーションスキルの向上 北条 愛子
- 自己紹介文生成における階層的概念地図利用の効果 北条 優太
- 就労実習におけるスケジュール表導入による生徒の行動の変化 本多 恵美
- セリフモニタリング能力がメール文の印象に与える効果——顔文字の呈示量と関連させて—— 本土 歩美
- 3歳児の気質による保育士の働きかけの違い——自由遊び場面での行動観察をもとに—— 前川 綾香
- 展望的記憶の符号化時におけるイメージングの影響 前田 宙希
- 空間行動によって形成される認知地図と距離判断 前田 祐子
- 課題分析力向上による野球の送球技能の改善 松澤 遼
- 児童期における母子関係からみた大学生の甘えについて 松元 佑
- 幼児における心の理論の発達の变化 松山 祐子
- 多義図形課題と誤信念課題の比較による検討—— 「八方にらみの龍」の謎・眼球偏移の心理学的検討 光保 龍二
- 近赤外分光法を用いた読み書き計算・絵本音読中における脳活動の検討 宮下 響子
- 発達障害児を対象として—— 意志決定における認知欲求と知識量の影響 室井 良友
- 過剰な情報をどう扱うか—— 組み合わせの数の錯誤に関係する一要因の検討 森中 健裕

思考の逆説的侵入効果における測定方法の影響

森本つばさ

青年期における生と死をめぐる意識に関する研究

矢切 悠太

死別体験との関連から――

矢野 真美

総合支援学校高等部生徒の就業体験実習におけるセルフ・

マネージメント・スキル向上に向けた支援内容の検討

山口真理子

内的ワーキングモデルから検討した青年期の対人

様式と幼児期の母子関係について

山下 珠生

大学生の親に対する態度・行動と自我同一性、

対人態度の関連性

山本彩留子

高齢者デイサービスのエスノグラフィ―

通所者の語りを通して――

山本 泰子

性格検査が自己概念に与える影響

横井 大和

ホラー映画における恐怖の感じ取り方の違いについて

――日本人と欧米人との比較調査――

吉田真由美

視覚刺激の片側視野呈示による反応と、その半球

優位性について

涌井 大輔

一般色覚者と色弱者における色知覚経験の多様性

――カラーユニバーサルデザインの視点から――

和田奈緒美

自我理想型人格と超自我型人格の比較文化研究

――日中成年の心理健康――

辛 翎

日本人学生と在日中国系留學生の孤独感の比較

――対人関係による孤独感の違いの考察――

葉 兵

日常生活場面における色彩嗜好

猫よけペットボトルについての考察

許 実

映像による手順の説明が理解と遂行にもたらす効果

友人関係目標がストレス過程に及ぼす影響

裏切り者検知機能と人物の顔の記憶の関係

顔の印象評定が顔の再認・記憶・成績に与える影響

――美しさと好ましさを観点から――

光廣可奈子

アルコール依存症とその家族

――滋賀県断酒会の調査から――

奥田 眞澄

幼児の愛着の安定性に影響を及ぼす家族要因

音読・計算課題の遂行による地域在宅高齢者の

前頭葉機能とアパシー傾向の変化

若者の留学に見られる多様な意味づけ

――経験者へのインタビューから――

松岡有希子

色の印象と温度

出産後1ヶ月における母親の育児不安と母親自身

の被養育体験との関連

加藤 信恵

発達障害児を持つ親の障害受容における対児感情

および自尊感情の心理的過程

――半構造化面接による検討――

本田 浩子

選択機会設定による認知症高齢者の活動性への効果

順序情報の記憶における加齢の影響

松本 千穂

在宅介護者のメンタルヘルス介入による対処行動

形成とプログラムの効果の検討

森田療法の独自性の検討

――行動療法との比較を手がかりにして――

小牟禮尚子

刺激等価性を用いた障害児の貨幣価の理解について

異性の印象形成と状態自尊感情の関係

死の恐怖に起因する存在不安と、それに対抗する

精神的防御の方法と相互関係

援助行動における認知的不協和の低減について

哲学的道のエスノグラフィ―

宮崎 雅朗

先天性疾患児および慢性疾患児の母親の育児

ストレスと自尊心の関連性

――自尊心の高低の比較を通して――

中野 優子

ストループ現象における色相の効果

幼児における分与判断とその行動の分析

発達障害児に対する学習療法

――継続的な集団学習が与える影響――

堀内 志穂

高齢者の生活において散歩が持つ意味と価値…

高齢者の散歩に同行して

算数の割合文章題の困難さの改善について

中村 理一

テーマリサーチ型ゼミナール

(LAクラス 他者問題と文化理論)

人々の暮らしと自然環境

――ピーター・シンガーの環境論に抜け落ちたもの――

木村 素

季節行事における和菓子  
日本語不信論

横山 美紀

元結

かき餅きり機

西村佐登子  
五十嵐寛人

沖繩市に学ぶチャンプルー文化  
沖繩の暮らしと風水  
沖繩離島地域の自然環境から学ぶ

寺島 舞  
水谷 聡子  
梅景 大介

明治時代の国語国字問題  
新コミュニケーション論

小牧 沙織  
横田 孝俊

テーマリサーチ型ゼミナール  
(LDクラス 中国語文化圏)

地域環境を考えるための教科書づくり  
奄美の八月踊り

福永 達也

カフエがもたらす文化

佐藤 俊

子どもたちはなぜ帰ってくるのか

原田 有唯

三毛について

田中 瑞枝

テーマリサーチ型ゼミナール  
(LFクラス 京都から発信する)

児童文学から見る帰属意識の確立  
メディアにおけるジェンダー表象の限界と可能性

中山 悠子

『撒哈拉的故事』を通して  
中国・民族観光業に見る「オーセンティシティ」  
とその在り方

末岡 宏太  
芦谷真智子

「京都」観光の問題点

中山 祐太  
白井 麻耶

自己調整機能としての自己愛のはたらき

高橋美沙希

中国でのビジネス展開

なぜ日本の携帯電話は中国で浸透しないのか

今再び古都税問題を考える  
鴨川から見た京都文化

喜多 祐子  
桑田 亜澄  
曾我 文音

子ども達の発達過程に沿って

小島恵理子

中国経済の国際化に生ずる問題

高原 祐貴

テーマリサーチ型ゼミナール  
(LGクラス 書籍とその周辺)

成果主義の現状と課題

竹田 悠里

商標権の確立を中心に

大野 舞

小説における「あとがき」の存在

大人向け絵本の現状

映像の表現機能について

多湖 裕子

琉球紅型と沖繩の人々  
沖繩の「ことわざ」「民話」  
人々の生活に根づく琉球言語文化

竹田麻衣子

「ライトノベル的なるもの」の形成

相互影響を通して  
ディックブルーナの絵本

日本における「思いやり」と「個性主義」

馬場 優子

首里城史にみる沖繩衣食住文化に学ぶ

三山麻里子

伝統的な高料理とアメリカ食文化

松岡 渚

日本の現状を踏まえた英語教育改革試案

備前 綾子

喜界島方言の現状

山本 美和

ブログ本という書籍の考察

岡本 愛澄

沖繩の墓と宗教

吉川 文子

インターネット書籍の変遷から

佐山 寛子

インタネット書籍の変遷から

小野 由香

シャーマニズムとの関わり

川中 淳之

伝統的な高料理とアメリカ食文化

中西 智美

SFにおける自己と他者

横越 英実

暴力について

藤井 真帆

竹富島のまちなみ保存から学ぶ

山本 美和

フリーペーパーの認知度調査

中野 哲水

在日文学から見えてくるもの

斎藤 真帆

喜界島方言の現状

山本 美和

フリーペーパーの認知度調査

岡本 愛澄

テーマリサーチ型ゼミナール  
(LCクラス 道具の研究)

伝統的な高料理とアメリカ食文化

松岡 渚

SFにおける自己と他者

中野 哲水

日本の鍵と錠

倉田 智香

喜界島方言の現状

山本 美和

ブログ本という書籍の考察

岡本 愛澄

江戸時代後期～戦後にかけての事例を中心に

沖繩離島の開発と伝統・環境

佐山 寛子

インターネット書籍の変遷から

小野 由香

テーマリサーチ型ゼミナール

(LHクラス 近代日本における

戦争の表象)

Many Lies in Sweatshops The gap between

the brand images and workers' condition

石橋 親

フランスにおける移民と教育

——イスラム系移民に焦点を当てて—— 大橋 由香

アメリカにおけるメキシコ移民

——多文化社会の同化と共生—— 井上 瑠美

Child Labor and Corporate Responsible Approaches in SouthAsia 井上江理子

新規 EU加盟国からの労働者受け入れにみる英国の対EU姿勢 遠藤侑紀子

日本の多文化共生社会への道 加藤綾希子

——日本の労働力不足を補う日系ブラジル人を中心に——

日本のニューカマーの子どもたちと教育 木嶋実有紀

ブリテイッシュ・ムスリムの現実と報道 酒井菜々子

フィリピン社会福祉 坂本 尚美

——母親と子どもの視点から社会福祉を考える——

現在のクラシック音楽ブーム 竹添 花菜

シンガポールにおける多言語共生 中村 友香

アメリカ合衆国における言語論争の流れとその展望

松川 紗織

ギリシャ悲劇とエリザベス朝演劇との比較研究

井上 亮

アメリカ合衆国における貧困問題 野口 始穂

自転車ロードレースにおけるドーピング問題 松川 輝和

テーマリサーチ型ゼミナール (LKクラス Asian Studies)

Save the Children and National Commitment

—— Current situations and solution efforts ——

河崎 浩二

アメリカの日本食ブーム

—— SUSHI を中心に ——

前田 朋香

台湾独立の問題と台湾人のアイデンティティ

—— ライムの誕生から継承 —— 岩田 裕香

マザーグース

石梶 仁士

シンガポールの女性と労働

山本 幾子

テーマリサーチ型ゼミナール (LNクラス 周縁からの都市論)

今里新地——コリアタウン化する花街

北川 俊介

平成の大合併と木津川市の誕生

山崎 匠

京都市内における商業的ライブ空間の変遷

北川 由紀

伝統的花街（祇園）の景観変化に関する考察

後藤 理恵

町並み保存のために

田中 博之

語彙リストに基づく基礎語彙

北村 美樹

J・POP 歌謡曲に見る地方出身者の東京ドリム

——憧憬と郷愁の狭間で——

竹原 舞

テーマリサーチ型ゼミナール

テーマリサーチ型ゼミナール

店舗形態・立地特徴からみた食品スーパーの戦略

——激安スーパー玉出を事例にして——

諸節 仁美

(LSクラス 都市と村落の環境史)

(LBクラス 京都の新しい観光ガイドブックを作る)

路地裏の歓楽街「西陣京極」の変容

立石 文音

宇治市のGIS文化財データベースの構築と

災害危険度の考察

きぬさらん——洛西地域の新しい観光ガイドブック——

吉川 優美

短期、中期滞在者施設「ゲストハウス」の実態

——大阪を事例にして——

野崎智佳子

奈良地方の伝説の地域的特徴

植田 美香

石川県能登町の過疎化と産業構造の変化

渡邊 飛鳥

伊藤 達俊

愛媛県松山市における大型商業施設の展開と

中心部商店街の変容

三好 正紀

北海道十勝地方におけるグリーン・ツーリズムの

地域的特性

川畑 沙織

京都府南部の茶栽培地域の変容と特性

高田 康代

川村 真理

有本 香織

堀之内陽子

Costa Rica: A Study in Successful Ecotourism

磯金麻奈美

Ecotourism in Malaysia The Policy and the

Current Situation

三橋 奈未

テーマリサーチ型ゼミナール

(LUクラス 情報科学技術による

言語諸学の展開)

小崎 絵美

今田多恵子

Ecotourism in America

井川 真希

ピジン・クレオールと英語

田頭 直樹

日本語教育における教科書基幹語彙の選定

鈴木 雄太

湯浅 有希

First Nations Ecotourism in Canada

岡嶋 芙美

学習者の発音を引き出す日本語母語話者の応答

黒田 秀美

文学作品の続編に関する計量的研究

宮川 恵一

日比真梨子

The Ministry of the Environment's Policy for the

Promotion of Ecotourism : a Critical Analysis

和田 良司

関西の大学生における関西方言のイメージ調査

横倉 和子

英語文法指導における例文

——特性と教育的効果——

原 敏美

The importance of ecotourism

岸 千恵

熊野市におけるエコツーリズムの役割

河内 徳克

Ecotourism in New Zealand

坂口 美紅

Ecotourism in Japan

土居恵理佳

Ecotourism in Hawaii

西村 洋美

Ecotourism in Japan

米原 優美

Responsible Tourism

松枝 千世

テーマリサーチ型ゼミナール  
 (LCクラス 道具の研究)

ミシヨー型自転車を再現する

松田 奈々  
 有安 寿斗

ソウルとツリーリストの倫理  
 ——良きツリーリストとは何か——

小西 啓太

田原 有貴  
 西村 仁子

今岡 澄香

Peep (the life of Bai)

仕田原亜希

水野 里香  
 寺澤 哲

廃村「向之倉」の調査

住尾 礼美  
 望月 裕介

Look !! MULT, MELBOURNE  
 Colors of New York

都倉亜希奈  
 森 舞香

テーマリサーチ型ゼミナール  
 (LVクラス 「韓流」映画を解析する)

松下 諒子  
 塩野 喬士

Touch i South East Asia Vol. 1 ~ 3

渡邊 真実

映画を通して見る韓国社会  
 ——男性中心主義から作り出される男同士のホモソ——

石原 良成

田岡 拓

テーマリサーチ型ゼミナール  
 (LJクラス イベント企画)

映画を通して見る韓国社会  
 ——男性中心主義から作り出される男同士のホモソ——

テーマリサーチ型ゼミナール

(LIクラス もう一つの「地球の  
 歩き方」を創る)

Artong Project Vol. 2 イベント企画ゼミ  
 制作レポート

岸田 光史  
 肥後 孝行

日韓観客の映画鑑賞基準  
 ——日本でヒットした韓国映画と韓国でヒットした  
 日本映画の比較分析——

風景

南下 生

深堀 裕一

2002年日韓ワールドカップの興奮の正体  
 ——韓国における新たなナショナルリズムの出現——

paper trip in India

井上 彩子  
 寺倉 靖明

加藤亜以子

現代韓国における日本語学習者の増加と日韓関係  
 ——1965年以降を中心に——

民間故事和志怪  
 ——中国語で読む日本の古典——

米山 亜紀

山本 有里

映画を通して見る韓国社会  
 ——男性中心主義から作り出される男同士のホモソ——

タイペイ生活  
 お遍路——歩いて出あう——

今田 奈々  
 園山 貴史

三浦 修司

シヤルな連帯——  
 日韓歴史映画に表象される精神文化

2006年、夏、モロッコ  
 中国 シルクロード見聞録

高橋 渡  
 長谷川寛子

増山松里子

——山田洋次監督の「武士の一分」と林権澤監督の  
 「酔画仙」の比較——

イギリスエッセンス  
 多文化主義の都市・バンクーバー  
 ——日本人移民をたどる旅——

溝渕 恵

今出 友実

映画を通して見る韓国社会  
 ——男性中心主義から作り出される男同士のホモソ——

シャルな連帯——

池部 優衣

朝鮮王朝における陶磁器の変遷

小松原清子

——青磁から白磁へ——

林権澤作品から見る朝鮮戦争時の市民像

光本 恵子

日韓歴史映画に表象される精神文化

——山田洋次監督の「武士の一分」と林権澤監督の

「酔画仙」の比較——

藤田ちひろ

テーマリサーチ型ゼミナール

(LUクラス 情報科学技術による

言語諸学の展開)

文型情報付き教科書コーパスの構築

高屋敷 大

文型情報付き教科書コーパスの構築

北野 宏樹